



18

日本略記

2  
しん

△

枝了渡邊射

高橋  
八枚

門儿呂3  
號 1061  
卷 1-1

圖書刊行會



紙改

日本略記

4

三行解

夫日本ハ昔一嶋にて有つ了人王十三代の帝成務天皇  
 の御宇に三十國にわたらせ給ふ也其後大唐より賢人  
 來て言様ハ此國ハ纒纒に三十三ヶ國也是程小國と不知  
 寔に五十二位に不足争か佛法を廣人哉といふて歸り  
 けり其后人王廿四代の御門敏達天皇の御宇に聖徳太  
 子の御異見にて鏡帝二年癸卯六十六ヶ國被割けり郡  
 五百五十四郡也東西の間ハ九百十一里南北五百三十  
 里なりさる程に國の始ハ大和也嶋の始ハ淡路也郡の  
 始ハ宇多郡也寺の始ハ橘寺和嘉にあり嘉佛法の始ハ天王寺

圖書千行會

聖人の始ハ聖德太子用明天子也人之始ハ伊弉諾伊弉册也神の始ハ伊勢の外宮京の始ハ難波の京市の始ハ三輪市大和にあり橋の始ハ御幸が瀬の橋大和にあり軍の始異國退治也王位の始ハ神武天皇関の始ハ相坂の関年号の始ハ善記元年

一日本之名之事第一日域第二日本第三豊葦原第四秋津嶋第五大和國第六味國第七吾朝第八東海川第九水穗國第十堪忍國第十一神國といふ

一三國之名曰之事天竺天竺をハ月を像て月氏國と言唐土をハ星を像て震旦國といふ日本をハ日を像て日域

といふ也

一四方名之事京より東を関東と言又ハ東ともいふ京より南を関南と言又ハ南方ともいふ京より西をば関西といひ又ハ鎮西ともいふ又ハ西國ともいふ京より北をば関北と言又ハ北陸とも又ハ北地ともいふ

一社之數并人数之事大神ハ三千七百二十餘社小神ハ二億二万七千餘社也男子ハ十九億二万四千八百七十八人あり女子ハ二十九億三万六千八百三十一人あり

一 五畿内七道之事 五畿内五ヶ國ハ五天竺其竺を表す 東海  
 道七ヶ國ハ過去の七佛を像了 関東八ヶ國ハ台藏界其界  
 の八葉を移す 南海道六ヶ國ハ補陀落の六観音をま  
 なぶ 山陰道八ヶ國ハ金剛界の八葉を表 山陽道八ヶ  
 國ハ大八王子を像了 西海道九ヶ國ハ九曜の星を像  
 了 北陸道七ヶ國ハ天神七代を表す 都合六十七ヶ國  
 也

一 道の長短の事 京辺都南方ハ三十六所を一里とす 坂  
 東ハ六所を一里とす 中国ハ十八所を一里とす 又わ  
 たなべより熊野迄ハ四十八所を一里とす 伊勢道ハ  
 四十八所也

一 山之高下之事 一には富士山坂東道百二十里上三ヶ  
 國をふまゆ了 二には立山東道百里上三ヶ國をふむ  
 三には釋迦が嶽卅六所道七里上四には山上卅六所  
 道七里上五には太山十八所道七里半上 伯耆六には  
 金剛山三十六所道二里上 大和

一 八箇津之事 第一京九万八千家 二堺八千家 三伊勢山  
 田四千家 四若狹小濱千家 五山口千家 六筑前博多一  
 万二千家 七宇津宮六千家 八美濃福山一万三千家 是  
 八ヶ津也

一武士司之事京より東武士ハ降三世明王の化身として多門天の分身粟田口を守り京より南の武士ハ軍陀利夜又明王の化身として持國天の分身東寺口を守り京より北の武士ハ金剛夜又明王の化身として廣目天の分身鞍馬口を守り此四方の武士ハ國の鏡として惡人を退治して王城を敬ひ善人をろだて佛法を守護し下知を守り王法を崇申なり

一内裏ハ忝と十善の御位なれば日本の主にて一天四海にかしづかれ給ひ六十餘劫より崇敬申ハ王土に住居す故也又公方様ハ帝王の御代官として天下

の將軍として日本の政所也と号し又御所と申す  
一三官領ハ一武衛二島山三細川也四職ハ山名赤松京極一色也この三官領四職を七頭の大名と申也是ハ公方の内のをとな頭なりこの外の大名をば諸大名といふ也武田六角土岐有馬大内嶋津是等也三國司ハ伊勢阿波飛彈也又大内殿ハ百濟國の司にてまます間其位高といへ共日本へ流され給間化國人によりて御前にて所座敷ハなきなり

一七人の大名ハ公方様の御成被遊人也武衛の内甲斐は島山の内遊化山名の内垣屋是三人御成御免也

中比より赤松の内浦にも御成御免有之の間又者若  
黨に四人也

一内裏之御領所之事何國にては國衙と申也六十六ヶ  
國の衙より禁中へ<sup>参</sup>米已上五拾万石納了也又比叡  
山の山領は六十六ヶ國より上る事以上合五十万石  
也此内八万石者江<sup>州</sup>より納了也

一遷都之事初京ハ難波也三十代欽明天皇御宇也次京  
ハ岡本也四十五代聖武天皇御<sup>宇</sup>也次京ハ長岡也四  
十九代光仁天皇御宇也次京ハ奈良也五十代桓武天  
皇御宇也今京ハ平安城也同御宇傳教大師法華經九

万部を調て一条より東寺の南大門迄之間を九条に  
わらせ給ふに地を三尺返して九万部の経を布て開  
き給ふ也洛中とハ此内を申也京を九条にわす事ハ  
九帖の袈裟と九品の浄土を表す也延暦十三戊年  
十月に開き給ふ也

一四ヶ之本寺と申ハ東大寺興福寺延暦寺園城寺也此  
四ヶ之大寺ハ天下の所祈禱所にて内裏の所祈禱所  
也

一諸宗之本寺之事法相宗本寺者興福寺也三論宗本寺  
者元興寺律宗本寺者西大寺也俱舍宗本寺者園城寺

成實宗本寺者大安寺也花嚴宗本者大寺也天台宗本  
寺者延曆寺也真言宗本寺者東寺也已上是を八宗と  
云此外四宗有之禪宗本寺者南禪寺也淨土宗本寺者  
知恩院也日蓮宗本寺者經王寺也時宗本寺者古寺也  
初の八宗と後の四宗と合せて十二宗也天竺<sup>竺</sup>にてハ  
五百三宗也唐土にてハ三十二宗也日本にてハ十二  
宗也

一日本七不思儀之事伊勢に正直なり高野に道心なり  
北野に歌讀なり鞍馬に福人なり八幡に弓取なり黒  
谷に念佛なり陽の山に無病の人なり是日本の不思

儀也

一九品之淨土之事上品上生ハ東寺上品中生ハ高野上  
品下生ハ天王寺中品上生ハ濃州岩屋中品中生ハ芳  
野中品下生ハ熊野下品上生本高野下品中生ハ東大  
寺下品下生ハ大安寺也是を九品といふ也

一和<sup>州</sup>片岡にて太子達磨と贈答の和歌之事則太子の

御歌に

一なてるや片岡山の飯にうへてふせる旅人あは  
れ親なり

達磨の返歌に



いかさかのとみのを川の絶はこぞ我大君の御名  
を忘れし

新の形  
上  
下  
おろし

一五山之事京の五山ハ天龍寺相國寺建仁寺東福寺万  
壽寺南禪寺ハ五山の上とて五ヶ寺の頭上也

一鎌倉五山之事建長寺圓覺寺淨智寺壽福寺大覺寺是  
也

一日本虎無之事日本ハ千里不足故虎不住也四國者百  
里不足故無狐東寺之南門より赤間迄百八十里也又  
赤間関より薩摩防津迄百八十里也

一億劫之事十宛十者百也百宛百者千也千宛千ハ万也

万宛万ハ満満ハ千満千満者無量万と二度云を一億

と云也劫といふハ高さも四十里廣さも四十里横  
四十里ある石の塔に芥子を一杯入て三年に一粒宛宛  
取りて盡たるを一劫といふ也

一天竺の伽藍者一万三千七百十間也大光寺なり小轉  
輪王の所願所也炎上の時七年の間焼也

一大唐の伽藍者一千一百七十七間也即祇園精舎を移  
す也孝武帝の寺也炎上の時三年焼也

一日本伽藍ハ三十三間也後白川院御建立也

一天竺の初王ハ密多羅王と申也十九代の王を轉輪聖

王と申此王の第二の所子を何彌陀に成り給ふ又西城國の彼斯之正王第六の姫君阿因夫と申を婦人に給ふ是ハ千歳にて入滅して薬師と成り給ふさる程に彌陀の本願六十願なり一を十二願分て薬師に讓給ふ又彌陀羅王より拾七万三千二百代之王を淨飯大王と言釋尊ハ此御子也

一日本より唐土ハ海上三千八百七十里也此内に新羅國百濟國蒙古國異國龍宮此等の國あり又唐土より天竺の東端へ海上一万二千十一里也此中に流砂川と葱嶺と有也流砂川の豎ハ八千里横ハ八百里也

水の深さハ平等にて三尺也葱嶺山ハ麓より山嶺迄五百里也又頂上より西へ下るハ五百里也上下千里の間水な一大海の中へへく一とろびへ出た山也

- 一三皇ハ伏羲神農黃帝なり
- 一五帝ハ小昊顓頊高辛唐堯虞舜也
- 一十四代ハ夏殷周秦漢魏晉宋齊梁陳隋唐宋なり

右一札和州橋寺在之正徳太子御本寺也文祿五年五月二十三日書之ある本を以て

慶長十三七月吉日

右一冊兼日懸望にまかせて乞求寫之家僕増山廣  
之が藏本によつて所得なり足は足利將軍家の治  
世に著作する事と見ゆしかはあれど今按に此書  
全く佛家の所撰なるべし文義甚誕りして信用し  
かたき説多し猶重て可尋考もの歎

維時元文五庚申壬七月六日

盛誌之

右次屋代弘賢所藏慶長古本一枚畢

文化十酉二月二十日夜

中山信名

一行アキ  
ツク  
ル

維時

元文五庚申壬七月六日

盛誌之

明治十六年九月獲以帛本一卷

黒川真頼

4

日本略記

下

國書刊行會

